

産油国トレーニング協力事業報告(サウジアラビア)

主要産油国との関係強化並びに人材育成に協力する為に、サウジアラビアの主要石油会社サウジアラムコとその関係会社の各部門のキーパーソンと2014年度直轄受入研修プログラムの説明及び打合せ、サウジアラムコ社教育プログラムにおけるJCCP支援プログラムに関する打合せを目的とし、さらには本年度のサウジアラビアでの同窓会の事前準備の一環として各部門へ計画の内容を説明することも目的として、平成25年11月15日(金)から11月23日(土)まで、研修部刀禰がサウジアラムコの関連部門を訪問しました。

1. ラス・タヌラ製油所

前回に続き、ヤヒヤ ダグリリ課長(Mr. Yahya Q. Daghriri, Supervisor, Planning and Performances Unit, Ras Tanura Refinery, 2009年度人事管理コース受講)と実践のカスタマイズドプログラムについて打ち合わせました。これは、昨年ヤンブー製油所で実施した現場での実践的コースについてラス・タヌラ製油所でもぜひ実施したいとの要請があり、内容の詳細を説明し、今後の進め方を打ち合わせたものです。また、今回の打合せで社員研修体制の見直しが行われていることが分かりました。これまで、本部門の責任体制は各製油所の所長にありました。そのため対JCCPの窓口はすべての製油所とNGL分留所にあり、事務手続きが煩雑になっていました。今回、製油所、NGL部門では、HR、教育訓練を統括すべく、当該部門(ラス・タヌラ地区)の本部に統括グループを置き一括管理をできるように検討を進めているとのことでした。近々まとめが終わり新体制が公表され、1月から実施される予定とのことでした。



ダグリリ課長(左)

さらに、経営陣と打ち合わせました。10月の異動で、ラス・タヌラ製油所のアブドゥッラ アル・バイズ所長(Mr. Abdullah O. Al-Baiz, General manager Ras Tanura Refinery)に、就任後初めて面談の機会を得ることができました。バイズ所長はJCCPに関する知識がないとのことで、JCCPの概略を説明し、2014年度コースプログラムを紹介しました。併せて、ラス・タヌ

ラ製油所ウスマン アル・ガムディ製造部長(Mr. Uthman A. Al-Ghamdi, Operations manager Ras Tanura Refinery)が同席されており、2008年度から続けているサウジアラムコ向けのカスタマイズドプログラムの紹介を行い、特に現場での実践的研修について詳細を説明しました(JCCP NEWSを活用)。



アル・バイズ所長(左)

2. リヤド製油所

今回3年ぶりにリヤド製油所のアブドゥルラハマン アル・スバイエ所長(Mr. Abdul Rahman Al Subaie, Manager Riyadh Refinery)他全マネジメントと打ち合わせの機会を設けることができました。2014年度コースプログラム説明を行い、新コース「戦略管理」コースについて、その目的と内容を説明しました。アル・スバイエ所長からヤンブー製油所で開始した現場での「見える化」に関するカスタマイズド研修について強い要請があり、実施について討議を行いました。実施日程と内容について概略を打ち合せ、今後詳細を詰めていくことで合意しました。研修の目的は、定期保全の期間を利用し、より実践的な指導を期待していることです。



アル・スバイエ所長(中央)

3. エンジニアリング・サービス部門 Professional Engineering Development Division (PEDD)

PEDD では、サウジアラムコの全分野の専門職エンジニアを対象に社内研修プログラムの検討と研修を行っています。前回に続き、インスペクションカリキュラム開発のランド ラハマン 課長 (Mr. Rasid K Rahman, Supervisor Inspection Curriculum Development Group)と、平成26年2月9日(日)～2月14日(木)に実施するカスタマイズプログラム「静機器の腐食・保全・検査セミナー」案の内容の詳細検討および PEDD からの要請状受領後に交わすアグリーメントの内容の確認を行いました。その他では「腐食防止」に重点を置いた講義について、来年の第4四半期もしくは再来年の第1四半期での実施を希望するとの申し入れがあり、上記のコース時に詳細を打ち合わせることにしました。

4. サウジアラムコ・シェル精製会社 (SASREF)

今回、アリ アブデウルラハマン アル・ハズミ社長 (Mr. Ali Abdulrahman Al-Hazmi, President, SASREF) と面談ができました。

これまで、SASREF からの研修生はなく、人事部門系の上席副社長と人事部長の紹介をされ、JCCP の概要と、2014 年度コースプログラム説明を行いました。アル・ハズミ社長は、1980 年に JCCP の研修を受講されており、同席者に JCCP の研修の素晴らしさを説明され、特に日本の日常生活の中でパンクチャリティに強い印象があり、社員に体験をさせたいとのこと。人事部門系の上席副社長は、日本的な管理の中でも改善活動に強い関心を示し、TPM コースに研修生を参加させたい旨を示しました。



アル・ハズミ社長 (右から2人目)

5. まとめ

前回と今回のミッションで、サウジアラムコの各製油所・本社等への2014年度直轄受入研修プログラムの紹介、並びにサウジアラムコ向けのカスタマイズドコースに関する打ち合わせについて、所期の目的を達成できました。併せて、サウジアラムコのJV会社との関係は、ベトロ・ラービクに続き、SASREFにも拡大ができました。サウジアラムコ向けのカスタマイズド研修については、ヤンブー製油所で実施した現場でのプラクティカルな「見える化」研修について、ジェッダ製油所、リヤド製油所、ラス・タヌラ製油所並びにベトロ・ラービクでの実施の要請が正式に挙げられました。

しかしながら、前回(9月)に製油所長の異動を確認したばかりでしたが、今回(11月)の出張でまたもや各所長の交代もあり、ベトロ・ラービク以外は振り出しに戻った感が否めません。今回、ラス・タヌラ製油所では新所長に説明を行い、今後の検討を待つこととなりました。引き続き、サウジアラムコの組織変更、人事異動について、アンテナを張り巡らせ、関係の途切れないよう、きめ細かい折衝を続ける必要性を強く感じています。

(研修部 刀襦 文廣)